

公益財団法人 日本サッカー協会
2021 年度 第 10 回理事会

2021 年 9 月 9 日

決議事項

1. 臨時評議員会開催の件
<p>1. 日時：2021 年 9 月 19 日(日)10 時開始</p> <p>2. 会場：オンライン</p> <p>3. 議題：(決議事項)(1)評議員 2 名選任の件 (2)役員の選任及び会長等の選定に関する規程改正の件</p>
2. ハイチ地震に対する支援の件
<p>8 月 14 日、ハイチで起きたマグニチュード 7.2 の地震で、2,207 人の犠牲者、12,268 人の負傷者が確認された(8 月 25 日現在)。この地震では豪雨のほかに洪水や土砂崩れが発生し、甚大な被害が広範囲に及んでいる。この地震で被災された地域の一刻も早い復旧を願い、以下の通り支援を実施したい。</p> <p><支援内容></p> <p>ハイチサッカー協会に義援金として US\$20,000 を寄付</p> <p>【参考：最近の災害時支援実施内容/国外】</p> <p>(1)2009 年 2 月 オーストラリア山火事</p> <p>①JFA から義援金 2,000,000 円</p> <p>②2010FIFA ワールドカップアジア最終予選オーストラリア戦での募金 340,270 円</p> <p>③計 2,340,270 円をオーストラリアサッカー連盟に寄付</p> <p>(2)2011 年 2 月 ニュージーランド地震</p> <p>ニュージーランドサッカー協会に義援金として 2,000,000 円</p> <p>(3)2011 年 7 月 タイ洪水被害</p> <p>タイサッカー協会に義援金として 2,000,000 円</p> <p>(4)2011 年 8 月 カンボジア洪水被害</p> <p>カンボジアサッカー協会に義援金として 1,000,000 円</p> <p>(5)2011 年 10 月 トルコ東部地震</p> <p>トルコサッカー協会に義援金として 2,000,000 円</p> <p>(6)2013 年 11 月 フィリピン台風 30 号被害</p> <p>フィリピンサッカー協会に義援金として US\$20,000</p> <p>(7)2015 年 4 月 ネパール大地震</p> <p>ネパールサッカー協会に義援金として US\$20,000</p> <p>(8)2016 年 4 月 エクアドル地震</p> <p>エクアドルサッカー協会に義援金として US\$20,000</p> <p>(9)2016 年 8 月 イタリア中部地震</p> <p>イタリアサッカー連盟に義援金として US\$20,000</p> <p>(10)2017 年 9 月 メキシコ中部地震</p> <p>メキシコサッカー連盟に義援金として US\$20,000</p>

- (11) 2017年 イラン・イラク地震
イランサッカー連盟に義援金として US\$20,000
- (12) 2018年9月 インドネシア大地震
インドネシアサッカー協会に義援金として US\$20,000
- (13) 2018年11月 北マリアナ諸島台風26号被害
北マリアナ諸島サッカー協会に義援金として US\$20,000
- (14) 2020年10月 ベイルート爆発
レバノンサッカー協会に義援金として US\$20,000

3. 指導者に関する規則改正の件

(決議) 資料1 ①②

指導者に関する規則 第18条及び第19条について以下の通り、改正したい。

【改正の背景】

2015年にフットサル指導者ライセンスが付加ライセンスから本ライセンスとなり、サッカーとフットサルの両方のライセンスを保有している指導者には、それぞれのライセンスに必要なリフレッシュポイントを獲得していただいていた。

両ライセンスの保有・維持を推奨する一方で、リフレッシュポイントの獲得がフットサルライセンスの取得や両ライセンスの維持を難しくさせる要因の一つとなっていたため、必要獲得ポイントを軽減することとした。

【改正内容】

第18条 サッカーとフットサル両方のライセンスを保有している指導者の必要獲得ポイントを軽減

第19条 指導ポイント付与対象となるチームを全種別に変更

【緩和策】

① 指導ポイントの付与対象資格を拡げる。

フットサルチームの指導者は、フットサルライセンスのみに指導ポイントが付与され、サッカーライセンスには付与されていなかったが、改正後は、種別を問わずサッカー・フットサルいずれかのチームの指導があれば、双方の資格に指導ポイントが付与される。

② ダブルライセンス保持者のC・B級について、獲得必要ポイント数を緩和する。

双方の資格を保有している場合、サッカーとフットサルそれぞれのC・B級の必要獲得ポイント数を『10P』緩和する。

※A級以上については、ポイント緩和は適用しない。

※詳細については、別添参考資料参照。

※別添 「指導者に関する規則」新旧対照表

【参考】サッカー・フットサルダブルライセンス緩和策

4. 「JFA シニアサッカーアンバサダー」の設置および選任の件

シニアサッカー普及の推進役として「JFA シニアサッカーアンバサダー」を設置し、初代アンバサダーとして金田喜稔氏を選任したい。

(1) 設置の目的

シニアサッカーの競技人口は年々増加しているが、選手を引退している人の方が圧倒的に多く、世間一般的にはシニアサッカーが行われていることがあまり知られていない。日本において今後益々増加する高齢者層の健康づくりや生き甲斐醸成のためにも、生涯スポーツとしてのシニアサッカーをさらに普及していきたい。そのために、シニアサッカーに注目が集まるような、影響力のある人物を「JFA シニアサッカーアンバサダー」として迎え、普及の推進役となってもらう。

(2) 「JFA シニアサッカーアンバサダー」の役割

- ・ JFA が主催するシニアサッカー普及策への参加
- ・ シニアサッカー普及全般に関するアドバイス

(3) 選任方法

以下の条件をベースに総合的に判断する。

- ・ 元日本代表選手
- ・ シニアサッカーに造詣の深い人
- ・ シニア年代の方々に親しまれかつ影響力のある人

(4) 任期：2年

<金田喜稔氏のプロフィール>

1958年、広島県生まれ。中央大学2年生で日本代表に選出。1977年6月に行われた日韓戦での代表初ゴールは、日本代表歴代最年少得点ゴール(19歳119日)として今も刻まれている。卒業後、日産自動車株式会社サッカー部(横浜F・マリノスの前身)でプレー。チームの中心選手として活躍し、国内タイトル7冠獲得に貢献。国際Aマッチ58試合出場。変幻自在のドリブルを得意とし、「キンタダンス」と呼ばれる独特のフェイントで世界の選手を驚愕させた。また、日本代表ではペレ、ベッケンバウアー、マラドーナ、ケンペス、クライフなど世界のスタープレイヤーと対戦した経歴を持つ。現役引退後は、サッカー教室の開催、サッカー日本代表戦の解説者を務めるなど、サッカーの指導・普及活動にあたる。

国際A：58試合 / JSL：139試合

5. アスリート委員会 委員選任の件

(決議) 資料2

JFA アスリート委員会に新任委員を選任したい。

氏名：中村 憲剛 (なかむら けんご)

※本議案の理事会付議にあたり、アスリート委員会で承認済み